



文化・経済フォーラム滋賀
文化deけいざい 経済deぶんか ニュース&にゅーす第19号(2012年9月5日)

発行 滋賀県文化振興事業団内事務局(大津市京町3丁目4-22 旧滋賀会館内)

077(522)8369 fax 077(522)9647

eメール bunka-keizai@shiga-bunshin.or.jp

事務局 岸野 洋

文化deけいざい 経済deぶんか
ニュース&にゅーす 第19号

どうも、この夏の猛暑は、パソコンのキーを叩く気持ちを遠ざけさせたようです。梅雨入りのメルマガ18号を発信から、ひと夏まるっぱ、お休み頂戴してしまいました。すみません。昼間の残暑はまだきついです。9月に入って、田んぼで刈り入れが始まりました。赤とんぼも涼しげに群れ飛んでいます。一日一日、天高く、季節は移ろいつつでしょうか。文化・経済フォーラム滋賀、秋の陣へ向け、第19号を届けます。

お話を聞いて、目から鱗でした。9月1日に近江八幡市で開催した第1回文化ビジネス塾です。講師はお菓子商「たねや」の山本昌仁社長(43)でした。年商は2年連続192億円、とらやさん抜いて、日本一の売り上げです。いや、まあ、その思いの強さがほとばしって、そうか、そうかと夢中で聞きました。会場は日牟礼神社境内、たねやさんの日牟礼茶屋2階でした。会員、スタッフ29人が聴きました=写真=。

何をそんなに感心したかと言えば、話のみんなですね。お若い社長ですが、目元が生きています。床の間、きちんと正座して、足元を崩すことなく、気負うことなく、淡々とした話ぶりでした。創業から140年、会長になったお父さんの徳次さんから社長を引き継いで、4代目です。最初に~私はこの近江八幡が大好きです。伝統と歴史のある傍は強い~などと話を展開した。

内容の一つ、一つ、テーブル起こし出来ればいいのですが、1時間に及ぶ山本語録、メモで項目を挙げると、以下のようなことでしょうか。

- ・ 商いの道は人の道。働いて良かったと思える職場にしたい。
- ・ 社員は1700人。お客さんの多くが女性で、社員も女性が7割近い。気が効く女性はどんどん店長になっており、全国各店舗で8割近い。
- ・ 愛荘町に10年前に作った<おにぎり保育園>は働く女性を支援してたが、食育も行っている。保育園で栽培、収穫することで、好き嫌いが無くなっている。
- ・ バームクーヘンはドイツの洋菓子で、固いので、柔らかさを追求して、それが当たっ



た。女性客を意識、美容も加えている。名古屋、大阪のデパートで、お客様にはガラス張りにして、行程を見せている。安心安全への配慮だ。

- ・ 出勤時と勤務後、社員は8つの心を唱和している。今から始まる、今日一日はどうだったかーの点検だ。1回言ったら終わりではない、何度も何度も、繰り返す。
- ・ 職人の世界は見て覚える世界、身体で覚えることだ。



- ・ 職人はお菓子を作るだけでなく、食材の現場（畑）へ行ってもらい、どう育っているか、知ってもらっている。

講演は成安造形大社会連携の加藤賢治さんが司会進行、講演すんで、質問を～との誘いにこの講演をプロモートした同じ成安造形大の石川亮さんが～先日、テレビで見て、鄙びを強調されていましたが...～と、問いかけました。山本社長は「京菓子の雅に対し、食材の供給源でもある、滋賀県の鄙びでしょうか」と。滋賀の鄙び、奥行きを深さを思う言葉でした。

講演を聞く前、近江商人を育んだ近江八幡の街を歩きました。旧西川家住宅では、文化・経済フォーラム滋賀の木村至宏代表幹事から近江商人の話を聞きました = 写真 =。近江商家の趣きを残す旧西川家は、国の重要文化財に指定されています。木村代表幹事の話された中の際には、蚊帳が吊るしてありました。薄い緑の網目の近江蚊帳です。ご先祖がこの蚊帳と畳表を持って、全国へ行商、江戸、大坂、京都でお店を構えるようになりました。商いの全国制覇です。



伝統文化とビジネスの結びつき、町を歩いて、木村代表幹事と山本社長の講演を聞いて、感じるどころ沢山でした。集合は日牟礼神社前の白雲館でした。**文化ビジネス塾の井上建夫塾長から開催趣旨**の話がありました。びわ湖ホールの浅野令子さんも白雲館の集合会場などお世話になりました。次回の文化ビジネス塾、彦根仏壇の井上さんから話を聞きます。次回は10月27日(土)です。詳しくは事務局からまた案内します。

今年で2年目の「文化で滋賀を元気に！賞」の募集チラシも出来ました。5日、滋賀県庁記者クラブに資料提供しました。来週13日はびわ湖ホールで秋の事業などについて、会議を持ちます。次のメルマガは20号です。今度はそう間を置かず、発信したいと思います。
(写真、文とも岸野)